

「外陣のどこに居ても同じ音量で聞こえるので 話を聞く環境でベストなスピーカーだと思いました。」

住職 阿部信幾 様

ー ドリームの音響システムを導入する前の設備や、導入のきっかけについてお聞かせください。

初期はラジカセをスピーカーとして使っていました。正直一番安いのを使っていたのです。しかし、聞こえる場所や範囲にムラがあり、どうすればいいのか悩んでいました。

平面波スピーカーは“離れていても音が聞こえる”ということを知っていましたが、水上甚栄さんから紹介していただき、実際に聞いて驚きました。外陣のどこにいても同じ音量で聞こえるので、法話を聞く環境において「ベストなスピーカー」だと思いました。



本堂の外観

ー 導入の決め手はなんでしたか？

音楽ならリバーブやディレイなどの音響的な味付けも必要となりますが、とりわけ“法話”ともなると、外陣のどこにいてもフラットに聞こえることがベストだと私は思います。

この“音楽用途”と“法話（トーク）用途”の違いがドリームのスピーカーを選んだ理由です。

私もオーディオ関係を趣味でやってましたので、『きちんと音を届けるにはお金がかかる』と知っていました。半端にやると半端な音しか出ないですから、本堂の建て替えに当たり、音響には徹底的に注ぎました。

繰り返しになりますが、聞こえなければ話にならないんです。“聞こえ”にお金をかけないから変なことが起こってしまうんです。ぶっちゃけ高欄（本堂周囲の板敷きの縁にある手すりのようなもの）がうちの寺にはありませんが、『音』と『高欄』が同じ価格なら、“飾り”よりも“音”にお金を使って正解でした。



本堂を建て替えて3年経ちましたが、高欄がなくても落ちた人は一人もいません。高欄は私の代でなくとも、いずれ誰かが「寄附する」って言ってくれれば構いませんが、音はいずれ、ではなく、今聞こえないと話にならないんです。

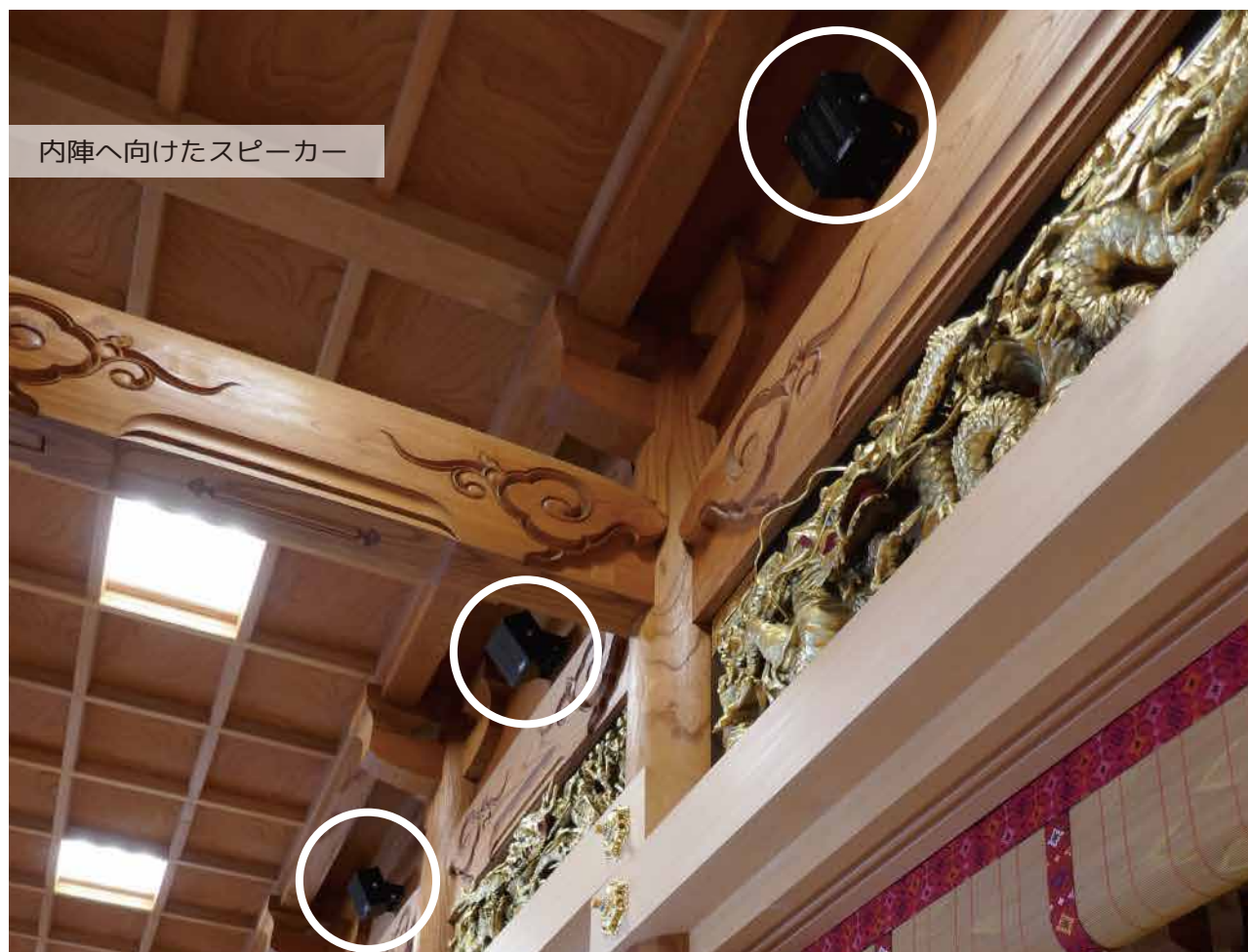
布教に回った中で、私のお寺の音響は自信を持って『一番良い』と言えますね。

— 導入後、どのような変化がありましたか？

外陣の前や後、端に居ても言葉が届くので寺として一番最高の環境になりました。

言葉がどこにいても同じ音量で聞こえるところが魅力的です。また、法事の時にはBGMとして真宗宗歌などをお経が始まるまでかけています。

お経は（マイクを通さない）地声の方が感覚的に好きですが、法話ではマイクを使います。お経の時は声を張り上げますので、法話との音量差が出ないようにするためでもあります。法事の参列者が10人・20人と多い時はご高齢の方も多いため、平面波スピーカーがあると「聞こえない」と文句を言われることもなく、本当に便利ですね。



その他では人数に限らず、毎月の定例法話会では必ず平面波スピーカーを使います。コロナ禍になってからの法話会はZOOMでやるようになりました。マイクを立てて、導入した音響システムで音を出しています。その音をパソコンが拾い、まるで実際に本堂で話を聞いているかのような空気感を法話会で流しています。この定例法話会はFaceBookで無料で流しています。

あとは、勉強会を3ヶ所でやってます。毎月やってるのが2ヶ所で、2ヶ月に1回が1ヶ所と、全8回シリーズで1セットの授業をZOOMでやっていきます。

これは京都にある通信教育の人たち（京都中央仏教学院・通信教育学部）のグループで、そこで「8回連続で話してくれ」という話です。

出かけることなく、寺に居てZOOMで流してお金が入る。本堂で法話会をしても、せいぜい20人でいっぱいでしたが、これがネットの場合になるとプラス30人くらいの方が聞いています。

会を運営するだけでも会費が集まってくる。会の運営はネットを使う方が楽ですね。会費は振り込み制ですし、そんなことがコロナ禍に起きています。

ー 導入後の新しい本堂で何かイベントなどされましたか？

コロナ禍の前でしたか、本堂の良さを知ってもらうために、音楽イベントをしたら新聞社がやってきまして「何でお寺でイベントをやるんですか？」と質問されました。



別に人を集めたいのではなく、お寺の本堂って音の響きが良いんです。法事やお説教だけに使用することはもったいない。だから“音楽での活用”という発想で、「良い音を聴いてもらいたい」という話をさせていただきました。

こうした“本堂を有効に使う”という面ではありがたいことにうちの寺では法事の多くが、いつの間にか“寺でやる”という習慣になりました。ですから檀家さんの9割の方が本堂を新しくする際「自分たちも本堂で法事をするから」とすごく協力的でした。

ー 法話以外でも本堂が活用されるのはいいことですね。

お寺は“人が死んだときや法事の時に行く場所”という固定観念がありますが、落語（落語のルーツは浄土真宗のお説教）をやっているところは多いです。一昔前は寺のお説教も高座でやってました。

だから落語は思いっきり伝統がないわけではないんです。

知り合いに落語家がいるお寺では落語を毎年やっている寺もあり、座って聞くので寄席みたいに高座を用意してるところもあります。住職がいかに楽しんで経営するかということが大切です。

“寺を任された”という決まりきった固定概念ではなく、限度はありますが、許される範囲で頭を使って色々なイベントをしている住職もあります。純粹に皆にこの場所を提供する、檀家であるなしにかかわらず「コンサートをやりに来ませんか」って声をかけてますが、うちの檀家じゃなくても来てる人は沢山います。

町のひとつの活性化としてイベントはいいと思います。寺を楽しくすると、田舎なんて特に希望が持てるんです。「この町どうなっちゃうんだろう？」とみんな不安に思ってますから。

でもこの町は減ってはいない。若い人もどんどん家を造り始めて、そんな“まるっきり若い人がゼロ”じゃない。ただ全体的にみると、桐生市なんかは子供が減ってきてる。どうなるんだろうという不安も、うちが本堂を建て替えたりして「まだこの町は大丈夫だ」という一つの芯となった。それは感じましたね。

— 最後に一言お願いします。

「全部変わるよ」って言ってるのが仏教です。〈諸行無常〉って言葉ですよ。諸行無常ってのは“一時たりとも同じ状態はあり得ない”ってこと。常に動いてるんだから。

妙に固執するとか、そこでみんなダメになる。なんでダメになるかって言うと、妙に儀式に固執したり。もちろん大事ですよ、伝統も。でもダメになってる分野とかあるじゃないですか。

直接見に行こうという人は少なくなって、昔と変わってテレビを見てます。それが時代ですが、鵜呑みにして「ネット配信したらお寺に人が来なくなってしまうのでは？」と言う人がいるんです。

でもそれってたとえば、CDが売れたからといってライブがなくなるわけではない。対面とメディアと必ず相まってライブはなくなっていないじゃないですか。法話もライブなんです。

寺で聞いている状況は配信とは全然違う空間なので、寺の音環境を最良の状態にしていく。尚かつYouTubeで発信しながらYouTubeを聞いてる人が「今度はライブ行ってみよう」とお寺に集まるようになる形が良いと思います。

阿部様、インタビューのご協力ありがとうございました！



左 / 西福寺住職 阿部様 右 / ドリーム社長 則行

お寺の音響システムのお悩みはぜひ弊社にご相談ください

株式会社ドリーム

〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町 1694-1

HP : <https://www.dream-pa.jp>

TEL : 045-531-5331 Mail : temple@dream-pa.jp



公式ホームページ

浄土真宗本願寺派 光寿山 西福寺様の所在地

〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々 1049-1 TEL : 0277-73-2276

お寺への音響システム導入実績

毫攝寺（福井県）、高頭寺（岡山県）、西福寺（群馬県）、西敬寺（長野県）
常圓寺（栃木県）、永泉寺（茨城県）、西宮寺（福井県）、善行寺（埼玉県）
昌平寺（埼玉県）、光明寺（岐阜県）、光明寺（福井県）、願生寺（福井県）
照光寺（佐賀県）、西楽寺（島根県）

《敬称略》